

はじめに

本資料は、国土技術政策総合研究所の事項立て研究課題「建築物の外装・防水層の長寿命化改修に資する既存 RC 部材の評価技術の開発（平成 30 年度～令和 2 年度）」の一環として取りまとめた、外装塗り仕上げの劣化調査を行う技術者にむけた解説書である。

建築物の外装仕上げとして、特にコンクリートやセメントモルタルなどの下地に用いられている建築用仕上塗材（以下、仕上塗材という）の劣化調査に関する技術は、1980 年度から 5 年間にわたって実施された建設省総合技術開発プロジェクト「建築物の耐久性向上技術の開発」および 1986 年度から 3 か年実施された建設省官民連帯共同研究「外装材の補修・改修技術の開発」で体系化され、その成果は次の①から⑨に示すような文献・資料に反映されてきた。

- ①外装仕上げの耐久性向上技術，技報堂出版株式会社，1987 年
- ②塗り仕上げ外壁の補修・改修技術，財団法人経済調査会，1992 年
- ③建築物修繕措置判定手法，財団法人経済調査会，1993 年
- ④建築物の調査・劣化診断・修繕の考え方，社団法人日本建築学会，1993 年
- ⑤外壁改修工事の基本的な考え方（湿式編），社団法人日本建築学会，1994 年
- ⑥建築物の調査・診断指針（案）・同解説，社団法人日本建築学会，2008 年
- ⑦建築研究資料 No.145「建築物の長期使用に対応した外装・防水の品質確保ならびに維持保全手法の開発に関する研究」，独立行政法人建築研究所，2013 年
- ⑧内外装改修工事指針（案）・同解説，一般社団法人日本建築学会，2014 年
- ⑨建築保全標準・同解説 JAMS3-RC 調査・診断標準仕様書-鉄筋コンクリート造建築物，一般社団法人日本建築学会，2021 年

これらの文献・資料には、仕上塗材に要求される美観および構造体の保護性能の確保を目的として、経年劣化した仕上塗材の調査方法、結果の判定方法などが示されている。

仕上塗材の劣化調査は、建築物の維持保全の一環として、点検結果だけでは不十分な情報の収集および改修設計のための現状把握を目的として実施され、点検から劣化調査、改修設計、改修工事、改修後の維持保全計画にいたる技術は体系化され、運用されている。劣化調査の結果が改修後の仕上塗材の品質に影響を及ぼすことは理解されているが、一方で、劣化調査の精度は実務を担う技術者個々の知見に依存しており、調査精度を確保するために、技術者は実践経験を積み重ねるなどして時間をかけて知見を獲得している。また今後、建築物ストックの増加に対して技術者の不足も予測されることから、ますます調査精度の担保が困難になることも考えられる。これらをふまえ、その支援の一つとして経験豊富な技術者の知見を集約および明示し、後継者の育成等の対策として本資料を作成した。なお、本資料は日本建築仕上材工業会技術委員会の協力を得て作成している。記して感謝申し上げます。

令和 3 年 12 月

国土交通省国土技術政策総合研究所 副所長 田中 敬三